

1. 科目名（単位数）	スーパービジョン特論（2単位）	池袋	3. 科目番号	SSMP5332
2. 授業担当教員	阿部 又一郎			
4. 授業形態	セミナー、ワークショップ、発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	スーパービジョンは、精神保健福祉、社会福祉及びソーシャルワークを実践するとき核心的な役割を担う。スーパービジョン特論では、 第一、精神保健福祉士、社会福祉士が急変する現代社会の中で専門職としてのアイデンティティを確保するため、 第二、クライアントの多様化するニーズを充足させる専門職者に期待されている効果性と効率性を持続的に維持するために求められるスーパービジョンの知識・技術・方法について講義する。 第三、理論的に学んだ社会福祉知識を実践現場で適用し、それから得た結果やフィードバックを受け入れ、新たな援助技術を開発して行く方法を探求する。 受講者の各々のフィールドにおける実践のスーパービジョンが進むにつれ、その実践経験に新たな意味が生じてくるであろう。後半は個人およびグループの事例検討を中心に行い、相互作用視野、そこで展開するプロセスを重視する。 本講義では、二つの相補的なテキスト Kadushin のソーシャルワークと、Munson の臨床的ソーシャルワークのテキストを教科書として採用する。			
8. 学習目標	精神保健、社会福祉及び社会福祉援助技術におけるスーパービジョンの必要性について探求する。 精神保健および社会福祉施設内でのスーパービジョンの位置、機能、過程について探求する。 スーパービジョンの精神保健、社会福祉及び社会福祉援助技術への適用方法を探求する。 全員が事例提示を行い、スーパービジョンに関する知識と技術を学び、習得し、スーパービジョン能力を発達させる。			
9. アサインメント（宿題）及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 アルフレッド・カデューシン, ダニエル・ハークネス共著 監修 福山和女 スーパービジョン イン ソーシャルワーク 第五版 中央法規出版 2016 年 【参考書】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 2006 Carlton E. Munson, Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press, 1993 【参考文献】 NASW, Reference for Candidates for Admission to the Academy of Certified Social Workers, Washington, D. C: Academy of Certified Social Workers, National Association of Social Workers, Margaret Gibelman, Navigating Human Service Organizations, Lyceum Books, Inc, 2003			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 授業への参加(発表とディスカッションなど) ワークの後のレポートと自己評価 ○評定の方法 授業への発表・ディスカッション・ケーススタディなど積極的な参加 40% 課題とレポート 40% スーパービジョンの適用能力、その他 20%			
12. 受講生へのメッセージ	○ 大学院学則を遵守し、積極的に授業に参加し、意見を述べ、議論すること。 ○ 常に専門的実践家としての知識と力量を育成するため努力すること。 ○ 学際的・国際的感覚を涵養すること。 ○ レポートの期限を厳守すること。 ○ 各人のフィールドにおける実践経験を発表することが本講座の単位取得には必須である。			
13. オフィスアワー	初回授業にて周知			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	精神保健、社会福祉及び社会福祉援助技術におけるスーパービジョンの本質と必要性			
【学習の目標】	精神保健、社会福祉及びその援助技術でなぜスーパービジョンが必要であるかを論議する。			
【学習の内容】	(1) スーパービジョンの必要性：スーパービジョンは専門的な精神保健福祉士及び社会福祉士を養成するための必須的な過程であり、それら専門的教育の統合的領域である。(精神保健福祉士及び社会福祉士の専門職としてのアイデンティティの確保、専門職者に期待されている効果性と効率性の持続的な維持、新たな援助技術を開発するため) (2) Case Work とスーパービジョン (3) Group Work とスーパービジョン (4) Community Work とスーパービジョン (5) スーパービジョンに関する文献			
【キーワード】	精神保健福祉、社会福祉援助技術、スーパービジョン、臨床的ソーシャルワーク、効果性と効率性			
【学習の課題】	精神保健福祉士及び社会福祉士の専門職としてのアイデンティティ			

専門職者に期待される効果性と効率性 【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 Carlton E.Munson、Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press,1993 【学習する上での留意点】スーパービジョンは、スーパーバイザーとスーパーバイジーの間の相互作用の過程であることをはっきり認識すること。	
2 . テ ー マ	スーパービジョンの発達と歴史
【学習の目標】 スーパービジョンの発展してきた歴史について理解する。 【学習の内容】 クリニカルソーシャルワークとその関連領域であるグループワークとサイコセラピーが独自の学として確立し、フィールドに応じた各々の理論を練り上げる過程で、スーパービジョンの理論とスタイルが生まれた。ソーシャルワーク、クリニカルソーシャルワークにおけるスーパービジョンの始まりから Munson、Kadushin、そして現在に至る変遷をたどる。 【キーワード】 History of supervision、Munson、Kadushin 【学習の課題】 スーパービジョンに関する学問的背景 【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 Carlton E.Munson、Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press,1993 【学習する上での留意点】 スーパービジョンの学問的・実践的蓄積について分り、自分も貢献できるように努力する。	
3 . テ ー マ	スーパービジョンの概念
【学習の目標】 スーパービジョンの概念についてわかる。 【学習の内容】 スーパービジョンの概念の構成要素(目標・機能・構造) スーパーバイザーとスーパーバイジーとの関係 グループスーパービジョン 関連領域である精神療法におけるスーパーバイザー・スーパーバイジー関係と対比して考える。 【キーワード】 スーパービジョンの概念・目標・構造、スーパーバイザー・スーパーバイジー 【学習の課題】 スーパービジョンの概念 【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 Carlton E.Munson、Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press,1993 【学習する上での留意点】 スーパービジョンの教育的・支持的機能の統合性について理解すること。	
4 . テ ー マ	精神保健福祉領域におけるスーパービジョン
【学習の目標】 精神保健福祉領域における問題を理解し、その領域のスーパービジョンを学ぶ。 【学習の内容】 精神保健福祉士、社会福祉士が活躍する多様なフィールド、精神科病院、総合病院、精神科クリニック、精神科デイケア、精神保健センター、行政機関、就労移行支援施設、企業のメンタルヘルス、スクールソーシャルワークについて学ぶ。各領域でのソーシャルワークを十全に理解することは、スーパービジョンにおいて必須である。 【キーワード】 クリニカルソーシャルワーク 【学習の課題】 精神保健福祉領域におけるスーパービジョン 行政的枠組みなど組織におけるソーシャルワークに対するスーパービジョン 【参考文献】 Carlton E.Munson、Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press,1993 【学習する上での留意点】 人間サービスとして社会福祉の特性を忘れてはならないスーパービジョンであること。	
5 . テ ー マ	精神療法と精神保健福祉援助におけるスーパービジョン
【学習の目標】 精神療法（心理療法）におけるスーパービジョンとソーシャルワークにおけるスーパービジョンの違いを理解する。 【学習の内容】 精神療法と社会福祉援助はその対象・目的に応じて、方法・技術がことなる。しかし、スーパービジョンという専門的教育の領域を共有している。例えば国際精神分析協会では、長期間の訓練分析とケーススーパービジョンが、精神分析家となるには必須である。また米国ソーシャルワーカーの資格 LCSW を取得するには認定ソーシャルワーカー、精神科医それぞれの一定時間のスーパービジョンを受けることが義務づけられている。LCSW の候補者が精神分析家にスーパービジョンを受けることもある。 また最近では精神保健福祉士がグループセラピーや認知療法を実践するために研修をうける場合もよく見られる。これらを踏まえて、ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの一つの領域、精神療法家によるスーパービジョンについて学ぶ。 【キーワード】 サイコセラピー、精神分析、認知行動療法 【学習の課題】 心理療法とソーシャルワークの違いを、目的、方法、理論、実践の側面から検討する。 【参考文献】 Carlton E.Munson、Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press,1993 【学習する上での留意点】 精神保健福祉士にとって心理療法は重要な隣接分野である。関心のある心理療法を学習する。	
6 . テ ー マ	教育的スーパービジョン
【学習の目標】 教育的スーパービジョンの概念、内容、過程と業務、教授－学習の原則と技法について探求する。 【学習の内容】 教授－学習の原則(学習に関する動機付けの原則、最大限のエネルギー投入の原則、肯定的満足感提供の原則、学習過程参加の原則、学習内容の構成の原則、スーパーバイジーの独特性の考慮の原則) 教育的スーパービジョンの内容(自己覚知、自己学習)、 教育的スーパービジョンの過程(初期段階、中間段階、終結段階)、 教育的スーパービジョンの類型(経験的－実存的、課題中心的)、Feedback の活用 【キーワード】 教育的スーパービジョン 【学習の課題】 教育的スーパービジョンの重要性、自己覚知 【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 【学習する上での留意点】 教育的スーパービジョンは、ワーカーを教育することに焦点を置いたため、スーパーバイジーとしての学生の参加が重要である。	
7 . テ ー マ	グループにおけるスーパービジョン
【学習の目標】 グループ体験をし、グループワークのコンセプトを理解する。	

	【学習の内容】クライアントの個人より関係性に働きかける指向性をもつソーシャルワークを行う場合、グループ理論、システム理論の知識と理解が必須である。ここではグループセラピーの歴史と概念を学び、グループが凝集性を持ち展開していくグループプロセスを理解し、グループのスーパービジョンについて知る。 代表的グループセラピスト Yalom の理論について学ぶ。 【キーワード】 グループの等質性、安全感、グラウンドルール、凝集性、here and now、グループプロセス、グループスーパービジョン 【学習の課題】 グループプロセスの基本概念を理解し、グループセラピーの方法、理論を学ぶ。 【参考文献】 Carlton E.Munson、Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press,1993 【学習する上での留意点】 グループワークを知り体験することは、精神保健福祉士における基礎となる。
8 . テ ー マ	支持的スーパービジョン
	【学習の目標】 支持的スーパービジョンの理論的背景をわかり、支持的スーパービジョンが求められる状況について理解する。 【学習の内容】 支持的スーパービジョン、職務ストレスとスーパービジョン自体からのストレス・職務満足、バーンアウト、ストレスの予防、スーパーバイザーの支持的資源(クライアント・同僚集団、社会的支持ネットワーク、スーパーバイザーの適応能力) 【キーワード】 職務ストレス、スーパービジョンストレス、職務満足、バーンアウト、スーパーバイザーの支持的資源 【学習の課題】 支持的スーパービジョンが求められる状況に関するディスカッション 【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 【学習する上での留意点】 自己覚知の過程を通して効果的スーパービジョンを妨げるスーパーバイザーのゲームに気づく。
9 . テ ー マ	児童相談所におけるスーパービジョン スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョン
	【学習の目標】 児童虐待が生じる要因、家族の精神病理現象について学び、現代の児童虐待のメカニズムと介入方法についてグループで検討する。 【学習の内容】 2000 年の「児童虐待の防止等に関する法律」の施行以降、世間の関心の高まりが反映し、児童相談所への相談・通告件数は増え続けている。一方、残忍な児童虐待が喫緊の社会問題となっている。まず、1) 児童虐待が生じる多様な要因、2) 虐待の種類、被虐待児の年齢、虐待者の属性、などを調べ、3) 事例の虐待者の精神病理、家族病理、社会病理について分析・検討する。患者の精神病理を知らずに治療などできないように、虐待者の個人病理・家族病理・経済・社会的問題を知らずしては、介入はできない。しかし、児童虐待の発生メカニズムについては、決して昔と同じではないはずである。スーパービジョンは、以上の視点と、リスク管理、学校、医療機関、福祉との連携も視野にいれて行われる。 【キーワード】 児童福祉法、児童虐待防止法、スクールソーシャルワーク 【学習の課題】 教員自身、精神科医としてパーソナリティ障害や精神病の母親の養育放棄の事例を多く経験しており、児童相談所をはじめ多様な専門職との連携を図った経験がある。しかし、治療を求めてくる母親とニュースで報道される親からの残忍な虐待の事例とは異なるように思う。その違いを精神病理学的、社会病理学的に考察する必要がある、ミクロ・マクロ双方の働きかけが要請される。 【参考文献】 Carlton E.Munson、Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press,1993 【学習する上での留意点】 Carlton E.Munson は、その経歴の後半は、国際的児童虐待を専門としてきた。Munson の論文も読んでみよう。
10 . テ ー マ	スーパービジョンの評価
	【学習の目標】 スーパービジョンにおける評価の必要性、評価方法についてわかる。 【学習の内容】 行政的目標(ワーカーの過去の業務遂行の実績に関する評価)の評価と教授－学習過程としての評価(ワーカーの専門的成長と発達に焦点を置く)、評価の目標、評価の問題、評価の過程、評価の問題と望ましい評価方法 【キーワード】 評価の価値、評価会議 【学習の課題】 評価と適切な批判を通してスーパーバイザーの成長と変化が可能であることに気づく。 【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 【学習する上での留意点】 スーパーバイザーの任務と課題は、機関・クライアント・スーパーバイザーなど誰にも均等に助けになることであって、いつも誰からも人気を維持することにあるのでない。そのためつねに責任性が問われるということがわかる。
11 . テ ー マ	スーパービジョンの評価の実際
	【学習の目標】 実際、スーパービジョンの評価で求められることが何かについて論議する。 【学習の内容】 評価の概要と指針、評価内容と領域、スーパーバイザーに対する評価、スーパーバイザーに対する評価 【キーワード】 評価内容 【学習の課題】 クライアントに対するワーカーの態度に関して評価するときスーパービジョンの項目を作成する。 【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 【学習する上での留意点】 評価領域を多様に拡大し、適用してみる。
12 . テ ー マ	スーパービジョンの実際－事例を通して
	【学習の目標】 対象別事例を通してスーパービジョンの知識・技術・方法などを探求する。 領域別事例を通してスーパービジョンの知識・技術・方法などを探求する。
13 . テ ー マ	スーパービジョンの実際－ロールプレイを通して
	【学習の目標】 対象別事例を通してロールプレイをしながらスーパービジョンの知識・技術・方法などを身につける。 領域別事例を通してロールプレイをしながらスーパービジョンの知識・技術・方法などを身につける。
14 . テ ー マ	世界のソーシャルワークとスーパービジョン
	【学習の目標】 世界各国のソーシャルワークについて学ぶ。各国のスーパービジョンについて調査し、スーパービジョン研究について知る。

	【学習の内容】ソーシャルワーカーの資格、たとえば米国では認定ソーシャルワーカーACSW (Academy of Certified Social Worker) は①福祉系大学院終了；MSW (Master of Social Work)あるいは福祉系大学の卒業；BSW (Bachelor of Social Work) ②ACSW の試験合格、③三年の実務経験と規定され、その三年の間、最初の1500時間はACSW 有資格者ソーシャルワーカーのスーパービジョン、残りの1500時間の間は、精神科医のスーパービジョンを受ける、と決められている。各州の公的ソーシャルワーカー資格が整備され、共通資格の形は徐々に変容してきている。 ソーシャルワークの歴史は各国の歴史の特異性にもとづき多様だが、ソーシャルワークの資格とスーパービジョンにおいても同様である。 【キーワード】各国のソーシャルワーク 【学習の課題】関心ある国のソーシャルワークの歴史と資格・スーパービジョンについて調べてみる。 今日、質的研究法の1つに組み入れられた「フーコー派言説分析」(Foucauldian Discourse Analysis)においてはどのようなスーパービジョンが可能であるか考えてみよう。 【参考文献】Carlton E.Munson, Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press,1993 秋山智久編「世界のソーシャルワーカー 養成・資格・実践」筒井書房、2012
15. テーマ	グループの中の個人に対するスーパービジョン
	【学習の目標】医療現場、施設、組織など集団のなかの個人に対するスーパービジョンの方法を学ぶ。 【学習の内容】一人の精神保健福祉士、社会福祉士ある領域で仕事をすると、そのスーパーバイザーの仕事をサポート・助言・修正し、そのスーパーバイザーの経験とその相互作用から、スーパーバイザーの経験の変化・成長が生じてくるだろう。 現実のフィールドではすべてのPSW やスタッフがスーパービジョンを受けているわけではない。そこで必要なのがミーティングである。ミーティングのもつ機能、情報とコンセプトの共有と伝達の仕方から、グループは、multidisciplinary、あるいはinterdisciplinary、そしてtransdisciplinary なチームとなる。 施設、チーム、組織の中の個人にスーパービジョンを行うとき、その施設の持つ特徴を分析しながら進める必要がある。 【学習の課題】領域別事例を通してスーパービジョンの知識・技術・方法などを身につける。 【参考文献】Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 Carlton E.Munson, Clinical Social Work Supervision, Second Edition, The Haworth Press,1993 【学習する上での留意点】グループが機能するとはどういうことか、ダイナミックなプロセスとはどういうことか考えてみよう。